



青島の風

青島日本人学校だより
平成29年 11月3日
校長 金森 孝子

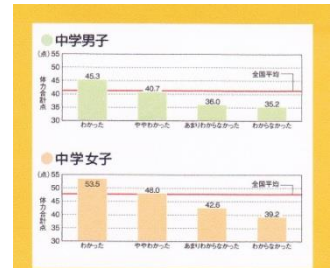
体力向上の鍵

平成29年も二ヶ月をきり、青島では、すでに晩秋の趣をたたえています。10月下旬からの気温の急激な変化は、かなり体に堪えるものです。そんな中、半袖姿で元気いっぱい外遊びをする子どもたち。授業や学習発表会の練習の合間をぬって、友達と一緒に嬉々として一輪車にのったり、校庭でボールを追いつながら走り回ったりするエネルギーには驚かされます。しかし、その姿から、成長期だからこそ、体を動かし体力をつけ、「生きる力」を子どもたち自身が高めていくことの重要性に強く気付かされます。

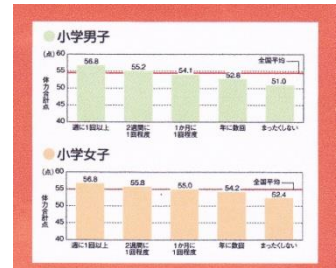
10月に、今年度2回目の体力テストを行いました。春の測定から5か月経過し、その間「持久走」「水泳」「運動会」と、学校全体で体育の学習にしっかりと取り組んできました。今回の「体力テスト」では、学年によって記録が伸びた種目は異なりましたが、顕著だったことは、小学部低中学年の全体的な記録の伸びです。特に春の測定で課題となっていた握力、ボール投げにおいては、大きな数値の伸びが見られました。

児童生徒に「生きる力」を育むため、国では、そのキーワードとして、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つを挙げています。その「健やかな体」の説明に、「体力は、人間の活動の源であり、健康維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きくかかわっており、『生きる力』を支える重要な要素」という記述があります。青島日本人学校において、「体力の向上」は、課題でもあり育成すべき重要なテーマです。それは、少人数であること、登下校がバス・車の送迎であること、放課後を過ごす場所や時間、中学部部活動なども限定されていることなどから、学校と家庭は、意図的に連携して体力の向上を図っていかねばならないのです。

文部科学省は「3年間の全国体力調査」を分析し結果を公表しています。興味深いのは、体育の授業や家庭での取組との関連を分析していることです。中学生では、「体育の授業で『コツがわかった』子の体力合計点は全国平均を上回り」、小学生では、「家の人と運動やスポーツを『する』子ほど体力合計点が高い」ことが明らかになりました。そのほかにも、学校の取組、朝食、運動時間などと体力や具体的な種目との関係も分析しています。「体力向上の鍵」は、意図的、継続的、連携した運動の取組です。寒い季節、ボールゲーム（バスケット、サッカー等）、縄跳びに取り組んでいきます。ご家庭での励ましと取組をよろしく願います。



体育の授業で「コツがわかった」子の体力合計点は全国平均を上回る (21ページ、32ページ)



家の人と運動やスポーツを「する」子ほど体力合計点が高い (178ページ)

学習発表会の見どころ

担当 小和田 恭子

いよいよ来週末に学習発表会が開かれます。今年のテーマは「とどけよう 笑顔と感動のプレゼント 世界が一つになるように」です。児童生徒は、このテーマのもと、日々練習に励んでいます。各学年の発表は、劇、合奏、合唱、プレゼンテーション、群読・・・と、内容は盛りだくさんです。また、小学部6年生や中学部による迫力ある和太鼓演奏、全校児童生徒による二部合唱も披露します。当日は、日頃の学習成果を、家族や地域の皆様に発表し、皆様に笑顔と感動を届けたいと思います。ぜひお子様の成長をご覧にお越しください。



